

5. 安全・安心な生活 ①交通安全対策の充実

評価者	環境生活部長 武田 誉利子		
令和6年度 実行宣言			
・関係機関が連携し、様々な交通安全対策に取り組み、「交通事故死者数ゼロ」をめざします。			
↓			
令和6年度 評価		☆評価	☆
・安全・安心フェスタまつさかや、各季(春・夏・秋・年末等)の交通安全運動等において松阪多気地区交通安全対策会議と協力し、交通ルール遵守や交通マナーの向上を訴え、地道な啓発活動を展開してきました。しかし、令和6年の交通事故死者数は前年より6人増の10人となり、人口10万人あたりの交通事故死者数のワースト順位が全国2位という不名誉な結果に終わりました。			
↓			
令和7年度 実行宣言			
・今年度の実行宣言として、再度「交通事故死者数ゼロのまち」をめざし、関係機関が緊密に連携して様々な交通安全対策に取り組み交通死亡事故ワースト上位を脱却します。			

評価者	建設部長 松本 尚久		
令和6年度 実行宣言			
・地域の実情を把握し、引き続き通学路などの歩行空間や交通安全施設の整備を行い、国道、県道については道路管理者に対し、しっかりと地域の要望を伝えていきます。			
↓			
令和6年度 評価	☆評価		☆☆
・令和6年度は、通学路交通安全プログラムや地域と連携し、通学路のグリーンベルトなど安全対策に取り組み、歩道整備においては、東出線が完了し、目標を達成することができました。また、国道、県道においては、7件の要望を伝え、2路線について路肩の整備を実施していただきました。ただし、交通死亡事故が急増し、より一層の安全対策を行う必要があります。			
↓			
令和7年度 実行宣言			
・地域の実情を把握し、引き続き通学路などの歩行空間や交通安全施設の整備を行うと共に、他部局と連携し、EBPMによる事故減少の取組を推進します。			

施策の進捗状況						
数値目標 ①	項 目	交通安全教室延べ参加者数				目標種別 ↑
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	19,000 人	19,000 人	19,000 人	19,000 人
	実 績	12,612 人	12,218 人	— 人	— 人	— 人
	評 価	—	E	—	—	—
	今後の方針	交通安全意識の浸透と、正しい交通ルールやマナーの周知徹底のため、引き続き交通安全教育指導員「とまと一ず」を活用して、市内の保育園、幼稚園、こども園、小学校、中学校、高齢者を中心に交通安全教室を行います。				

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

施策の進捗状況						
数値目標 ②	項 目	交通事故死傷者数(1月～12月)				目標種別 ↓
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	285 人	280 人	275 人	270 人
	実 績	317 人	292 人	— 人	— 人	— 人
	評 価	—	B	—	—	—
	今後の方針	引き続き、幼児から高齢者まで全年代を対象とした「とまとーず」の交通安全教室、「四季の交通安全運動」等での啓発、推奨像伝達式等を継続的に実施し、地域、関係機関、行政が一体となって、様々な交通安全啓発活動に取り組めます。また、高齢者の死亡事故が多いことから、交通安全教室等を通じ、明るく目立つ色の服装と夜光反射材着用の啓発を行います。				
数値目標 ③	項 目	交通マナーが悪いと感じる市民の割合				目標種別 ↓
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	28.5 %	27.0 %	26.0 %	25.0 %
	実 績	29.4 %	30.1 %	— %	— %	— %
	評 価	—	E	—	—	—
	今後の方針	引き続き、三重県全体で取り組んでいる「ハンドサインキャンペーン」、「まもってくれてありがとう運動」の周知を図り、「とまとーず」の交通安全教室で交通ルール遵守と交通マナーの大切さを訴えます。自動車、二輪車、歩行者全ての交通マナー向上に取り組めます。				
数値目標 ④	項 目	通学路の安全対策(グリーンベルト等の路面標示・転落防止柵等の設置)				目標種別 ↑
	評価者	建設部長 松本 尚久				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	6 路線	8 路線	10 路線	12 路線
	実 績	4 路線	6 路線	— 路線	— 路線	— 路線
	評 価	—	S	—	—	—
	今後の方針	引き続き、学校、地域、警察と連携した交通安全対策に努めます。				
数値目標 ⑤	項 目	通学路における路肩拡幅又は歩道整備完了路線				目標種別 ↑
	評価者	建設部長 松本 尚久				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	1 路線	2 路線	2 路線	3 路線
	実 績	0 路線	1 路線	— 路線	— 路線	— 路線
	評 価	—	S	—	—	—
	今後の方針	地域のニーズを反映し、歩行空間を確保することで安全性の向上に寄与します。				
数値目標 ⑥	項 目	交通安全対策に対する市民満足度				目標種別 ↑
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	2.76 /5	2.79 /5	2.82 /5	2.85 /5
	実 績	2.73 /5	2.75 /5	— /5	— /5	— /5
	評 価	—	C	—	—	—
	今後の方針	引き続き、関係機関、関係団体等と連携し、交通安全啓発等に取り組んでまいります。				

関係所属
地域安全対策課、建設保全課

5. 安全・安心な生活 ②防犯対策と消費者保護の充実

評価者	環境生活部長 武田 誉利子	
令和6年度 実行宣言		
・地域、警察等の関係機関との協働及び連携を更に強化し、子どもから高齢者まで全ての市民の願いである「犯罪のないまちづくり」の実現をめざします。		
↓		
令和6年度 評価	☆評価	☆
・地域、警察などの関係機関と協働し、防犯パトロールの強化や住民への啓発活動などを通じて市民の防犯意識の向上に努めました。しかし、令和6年の刑法犯認知件数(前年の826件から939件)、特殊詐欺等被害件数(前年の32件から46件)ともに増加する結果となりました。特に特殊詐欺の手口が巧妙化していることに加え、新たな犯罪としてSNS型投資・ロマンス詐欺も発生しているため、引き続き防犯対策と特殊詐欺対策の強化が必要です。		
↓		
令和7年度 実行宣言		
・地域・警察などの関係機関と協働及び連携し、防犯パトロールの強化や防犯啓発活動の充実等の取組により、こどもから高齢者まで全ての市民の願いである「犯罪のないまちづくり」の実現をめざします。		

評価者	産業文化部長 岡田 久		
令和6年度 実行宣言			
・消費者被害やトラブルを未然に防ぐため、悪質商法の手口や対処法について効率的な周知方法を考えるとともに、巧妙化する悪質商法の事例を研究し、引き続き消費生活センターでの相談解決度を高め、消費者被害を防ぎます。			
↓			
令和6年度 評価	☆評価		☆☆☆☆
・「消費生活センター相談件数」は令和5年度に引き続き令和6年度も相談件数が増加しています。相談内容の内訳としては、通信販売やSNS、インターネット通販のトラブルが多く、再相談となる事案が増加していることから、1件あたりの相談の難易度が上昇していることが伺えます。 ・この状況の中で「消費生活センター解決度」は目標値の99.0%を上回り、相談件数が増加しているにもかかわらず、解決度がさらに向上していることから、消費生活相談員がスキルアップを図り、最新の悪質商法等にも対応していると評価します。			
↓			
令和7年度 実行宣言			
・消費者被害やトラブルを未然に防ぐため、悪質商法の手口や対処法について効率的な周知方法を関係機関と連携しながら啓発をしていきます。引き続き消費生活センターでの相談解決度を高め、消費者被害を防ぎます。			

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

施策の進捗状況						
数値目標 ①	項 目	刑法犯認知件数(自転車盗)(1月～12月)				目標種別 ↓
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	105 件	100 件	95 件	90 件
	実 績	110 件	144 件	— 件	— 件	— 件
	評 価	—	E	—	—	—
	今後の方針	可能な限り青色防犯パトロールを増加させ、地域の安全確保に努めます。さらに、出前講座を通じて地域住民の防犯意識を高めてもらうことで、コミュニティ全体で犯罪抑止に向けた意識を強化します。これらの取組を通じて、安全で安心なまちづくりをめざします。				
数値目標 ②	項 目	特殊詐欺件数(1月～12月)				目標種別 ↓
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	5 件	5 件	5 件	5 件
	実 績	32 件	46 件	— 件	— 件	— 件
	評 価	—	E	—	—	—
	今後の方針	「特殊詐欺等被害防止機器購入補助金」制度を活用し、自動応答録音機能を有する電話機器等の導入費用を補助や警察やその他の関係機関と連携し、街頭での啓発活動を積極的に実施します。さらに、SNSを活用して重要な情報を発信し、住民に対して注意喚起を行います。加えて、「広報まつさか」での特集記事や、デジタルサイネージを活用した情報提供を行うことで、広く市民に対する防犯意識の向上を図ります。				
数値目標 ③	項 目	出前講座件数(防犯対策)				目標種別 ↑
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	15 件	15 件	15 件	15 件
	実 績	10 件	13 件	— 件	— 件	— 件
	評 価	—	C	—	—	—
	今後の方針	現時点では、すべての出前講座に対する申し込みが実施されており、今後もこの方針を維持していきます。さらに、松阪警察と連携し老人クラブ連合会や松阪市シルバー人材センターの総会などの場を通じて、講話の機会を設けます。				
数値目標 ④	項 目	消費生活センター解決度				目標種別 →
	評価者	産業文化部長 岡田 久				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	99.0 %	99.0 %	99.0 %	99.0 %
	実 績	99.4 %	99.7 %	— %	— %	— %
	評 価	—	S	—	—	—
	今後の方針	消費者の疑問や不安を解消し、年々複雑化・巧妙化する消費者トラブルの被害を未然に防ぐため、相談内容に応じた情報提供や助言を行うとともに、適切な専門機関への「つなぎ」を実施します。				
数値目標 ⑤	項 目	消費生活センター相談件数				目標種別 ↑
	評価者	産業文化部長 岡田 久				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	1,450 件	1,450 件	1,475 件	1,500 件
	実 績	1,447 件	1,599 件	— 件	— 件	— 件
	評 価	—	S	—	—	—
	今後の方針	積極的に専門的なセミナーや研修等に参加し、常に最新の情報を把握するとともに知識の向上を図ることで、絶えず変化する消費者問題に対応した相談業務に努めます。				

関係所属
地域安全対策課、商工政策課

5. 安全・安心な生活 ③防災・危機管理対策の充実

評価者	防災担当参事 中井 和史		
令和6年度 実行宣言			
・大規模災害発生に備えて、市民にもわかりやすい避難所開設マニュアルの作成に取り組みます。 ・大規模災害発生に備えて、地域における防災初動体制の強化を図るため、実災害を想定した実効性のある訓練を実施します。 ・大規模災害発生に備えて、ハザード関連地区を選定し、重点的かつ継続的に災害対策支援に取り組みます。			
令和6年度 評価		☆評価	☆☆☆
・災害発生に備え住民の初動時に活用するわかりやすいカード式避難所開設マニュアル(初動編)を新たに作成し、住民主体で開設する学校等の各避難所に備えた結果、地域の初動対応力向上の効果をもたらしました。 ・令和6年度松阪市総合防災訓練において市内全域の住民自治協議会を対象として、地域特性に合わせた津波避難訓練や住民主導による避難所開設訓練など実動訓練の実施した結果、訓練参加者2,432名に対し地域防災力の向上の効果をもたらしました。 ・それぞれの地域が持つ災害リスクや、地域の特性に応じた災害時行動を定めた「地区防災計画」の策定に向けて、防災職員が積極的に支援に取り組んだ結果、本年度は4地区において地区防災計画が策定となり、地区防災力の向上をもたらしました。 ・防災・減災の基礎となる「市民の防災意識の高揚」と「自助・共助」による初動体制の強化を目的として、地域へ出向し防災講話や地域防災訓練支援、学校等への防災教育を計110回行った結果、市民参加者7,708人に対し防災力の向上の効果をもたらしました。 これらにより災害発生に向けての市民の防災知識の向上や、災害発生時の初動対応力は向上しているものと考えますが、「地域防災力向上」の目標は短期に達成されるものではないため、継続的に、繰り返し行うことが肝要であることから、更なる地域防災力の向上に向けて引き続き防災対策事業に取り組みます。			
令和7年度 実行宣言			
・大規模災害発生に備えて、地域の初動対応力の向上を図るため、実災害を想定した実効性のある実動訓練を実施します。 ・大規模災害発生に備えて、ハザード関連地区を選定し、重点的かつ継続的に地域支援に取り組み「地区防災計画」の策定を推進します。 ・大規模災害発生に備えて、市の行う防災設備や備蓄品の整備事業と、市民や地域活動への助成等のソフト事業との両面から事前防災に取り組む、市民の防災ニーズに応えます。			

評価者	消防団事務局長 高橋 淳也		
令和6年度 実行宣言			
・地域防災力を強化するため、松阪市消防団の組織力の向上を図ります。 ・災害時における「避難行動要支援者」の避難・救助の在り方について研究します。			
令和6年度 評価		☆評価	☆☆☆
・地域防災力を強化するため、松阪市消防団の組織力の向上を図ります。 年間事業計画に基づいた訓練や研修会等を実施することができ、消防団員の災害対応能力の向上と士気高揚が図れました。 消防団員の確保については、各種イベントや街頭において、機能別団員として予防広報団員による積極的な広報活動により、住民への消防団活動への理解や関心を広めることができ、消防団活動の活性化に取り組むことができましたが、消防団員数の増加にはつながりませんでした。 消防用機械器具を計画的に更新配備することができ、消防団の活動拠点となる消防団車庫2棟の更新や小型動力ポンプ付積載車2台の更新、また、消防水利についても、良好な状態で使用できるよう適切な維持管理に努め、消防体制の充実強化を図ることができました。 消防団協力事業所の認定事業所は、新たに2事業所が認定され、数値目標には達成できましたが、事業所に勤務する消防団員の退団により認定基準に適合しなくなった事業所もあり、結果的には1事業所の増加となりました。 住民自治協議会に参画する消防団員(分団長以上)7人が新たに防災士の資格を取得し、地域の防災リーダーとして活動ができるよう環境整備を図り、住民の防災意識への向上につながりました。 ・災害時における「避難行動要支援者」の避難・救助の在り方について研究します。 消防団による避難行動要支援者の避難支援体制について、消防団と協議を重ね、避難行動要支援者リストを作成しました。 津波災害時の消防団活動・安全管理マニュアルの見直しを図り、消防団会議や毎年実施する新入団員訓練には、教育項目に津波災害時の消防団活動(30分ルール)を加え、津波災害時における消防団活動の安全管理について周知することができました。			
令和7年度 実行宣言			
・地域防災体制の充実強化を図るために、消防団員の確保に取り組みます。 ・消防団協力事業所の新規認定数の向上に取り組む、消防団活動の活性化を図ります。 ・消防団活動の強化と効率化を図るために、消防施設の維持管理や適正な配置、そして、消防団車両や消防用機械器具の計画的な更新配備を進めます。 ・地域の消防力を低下させないことに配慮しながら、地域の実情に応じた消防団組織の再編を進めます。 ・津波災害時における消防団員の活動要領や安全管理体制の確立を進めます。 ・災害時における消防団による避難行動要支援者への支援体制について引き続き研究します。			

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

施策の進捗状況						
数値目標 ①	項 目	災害に対する備えをしている市民の割合				目標種別 ↑
	評価者	防災対策担当参事 中井 和史				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	40.1 %	43.2 %	46.3 %	50.0 %
	実 績	37.7 %	50.0 %	— %	— %	— %
	評 価	—	S	—	—	—
	今後の方針	地域等へ出向し実施する対面での防災啓発に加えて、市広報誌に防災コラムを連載し、継続的に広く市民に災害への備えを促します。				
数値目標 ②	項 目	市の防災対策への市民満足度				目標種別 ↑
	評価者	防災対策担当参事 中井 和史				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	2.93 /5	2.95 /5	2.98 /5	3.00 /5
	実 績	2.90 /5	2.82 /5	— /5	— /5	— /5
	評 価	—	E	—	—	—
	今後の方針	大規模災害発生に備えて、市の行う防災設備や備蓄品の整備事業と、市民や地域活動への助成等のソフト事業との両面から事前防災に取り組み、市民の防災ニーズに応えます。				
数値目標 ③	項 目	住民自治協議会における地区防災計画の策定率				目標種別 ↑
	評価者	防災対策担当参事 中井 和史				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	20.1 %	27.9 %	32.6 %	34.9 %
	実 績	16.3 %	25.6 %	— %	— %	— %
	評 価	—	S	—	—	—
	今後の方針	「地区防災計画」の策定に向けハザード関連地区を選定し、重点的かつ継続的に地域支援に取り組みます。				
数値目標 ④	項 目	消防団員数				目標種別 →
	評価者	消防団事務局長 高橋 淳也				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	1,250 人	1,250 人	1,250 人	1,250 人
	実 績	1,203 人	1,191 人	— 人	— 人	— 人
	評 価	—	E	—	—	—
	今後の方針	各種イベントや街頭において、女性分団や機能別団員(予防広報団員)による積極的な広報活動、また、様々な媒体を活用した積極的な広報活動を行い、消防団員の確保に取り組みます。				
数値目標 ⑤	項 目	消防団協力事業所の認定数				目標種別 ↑
	評価者	消防団事務局長 高橋 淳也				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	31 事業所	32 事業所	33 事業所	34 事業所
	実 績	30 事業所	31 事業所	— 事業所	— 事業所	— 事業所
	評 価	—	S	—	—	—
	今後の方針	企業や事業所に消防団活動への理解と協力を得られるよう働きかけ、被雇用者が入団しやすく、そして、消防団活動がしやすい環境づくりに取り組みます。				

関係所属
防災対策課、消防団事務局

5. 安全・安心な生活 ④浸水対策の充実

評価者	建設部長 松本 尚久		
令和6年度 実行宣言			
・市管理河川等における河川整備や浚渫を実施するとともに、国・県管理の河川については、事業の促進を行います。県・市で構成する松阪地区浸水対策検討会においては、令和7年度の最終年度に向け、床上浸水ゼロをめざした対策を実施します。			
			
令和6年度 評価		☆評価	☆☆
・基太川をはじめとした市管理河川における河川整備、浚渫については、計画通り事業の実施を行い、国・県管理の河川についても、事業促進について9回の要望活動を行いました。松阪地区浸水対策検討会では、最終年度に向け、概ね計画通りの進捗を図ることができました。しかし、重要度の高い浸水対策事業に対する市民満足度においては、台風10号の影響もあり低下する結果となりました。			
			
令和7年度 実行宣言			
・市管理河川等における河川整備や浚渫を着実に実施するとともに、国管理河川のネック点の解消に向けた協議を進めます。県・市で構成する松阪地区浸水対策検討会は今年度で終了しますが、新たな協議会を立上げ、市内の二級河川を対象に、引き続き床上浸水ゼロをめざした対策を実施していきます。			

評価者	上下水道事業管理者 塩野 直弘		
令和6年度 実行宣言			
・雨水施設ストックマネジメント計画に基づき、ポンプ場の適切な維持管理、長寿命化に取り組みます。 ・気候変動の影響を見据えた「事前防災」を計画的に進めるための、下水道による都市浸水対策の中長期的な計画である「雨水管理総合計画」を策定します。			
↓			
令和6年度 評価		☆評価	☆☆☆
・ストックマネジメント計画に基づき宮町ポンプ場の放流ゲートの更新を行いました。また、ポンプ場施設の不具合に対しては、迅速な修繕等での対応を行い安定した排水運転ができました。 ・下水道による浸水対策の中長期的な計画であり、流域水害対策計画にも位置付けた雨水管理総合計画を策定しました。			
↓			
令和7年度 実行宣言			
・雨水施設ストックマネジメント計画に基づき大口ポンプ場(除塵設備)外の改築更新と、日常の維持管理による安定した排水運転の実施に取り組めます。 ・特定都市河川流域(中村川)及び、県河川4流域(三渡川、百々川、名古屋川、愛宕川)の浸水対策を国・県と連携して進めます。			

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

施策の進捗状況						
数値目標 ①	項 目	排水ポンプ及び樋門(15施設)の大雨時の稼働率				目標種別 →
	評価者	建設部長 松本 尚久				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	100%	100%	100%	100%
	実 績	100%	100%	—	—	—
	評 価	—	S	—	—	—
	今後の方針	引き続き、定期点検の実施と計画的なポンプ場等の設備更新により、確実な施設の稼働に努めます。				
数値目標 ②	項 目	準用河川甚太川河川改修工事の整備率				目標種別 ↑
	評価者	建設部長 松本 尚久				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	25.0 %	50.0 %	75.0 %	100.0 %
	実 績	0.0% %	30.0 %	—	—	—
	評 価	—	S	—	—	—
	今後の方針	ハード対策を着実に推進していくと共に、ハザードマップの更新などソフト対策も進め、流域の関係者すべてが連携して浸水対策を進めていきます。				
数値目標 ③	項 目	雨水排水施設(6機場)の大雨時の稼働率				目標種別 →
	評価者	上下水道事業管理者 塩野 直弘				
	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目 標	—	100%	100%	100%	100%
	実 績	100%	100%	—	—	—
	評 価	—	S	—	—	—
	今後の方針	ポンプ場施設が常時排水運転できるよう施設の維持管理に努め、ストックマネジメント計画に基づく改築更新を進めます。				

関係所属
農村整備課、建設総務課、土木課、建設保全課、上下水道部